

0042

秘密戰術... 山本

大龍項目

這惠... 秘密戰術

聯合教育

罪惡... 講演會

防諜... 講演會

防諜... 講演會

防諜... 講演會

防諜... 講演會

防諜... 講演會

備考

戰術... 秘密戰術

日野... 秘密戰術

三月十日... 秘密戰術

三月十七日... 秘密戰術

三月十九日... 秘密戰術

三月二十三日... 秘密戰術

三月二十七日... 秘密戰術

三月三十日... 秘密戰術



DUP



總則

004

三、秘密教、口家德力累多、今日武方

秘密教、口家德力累多、今日武方

(之ヲ)

本網中、宣傳、防諜、重要秘密教、

準備、基本、規定、

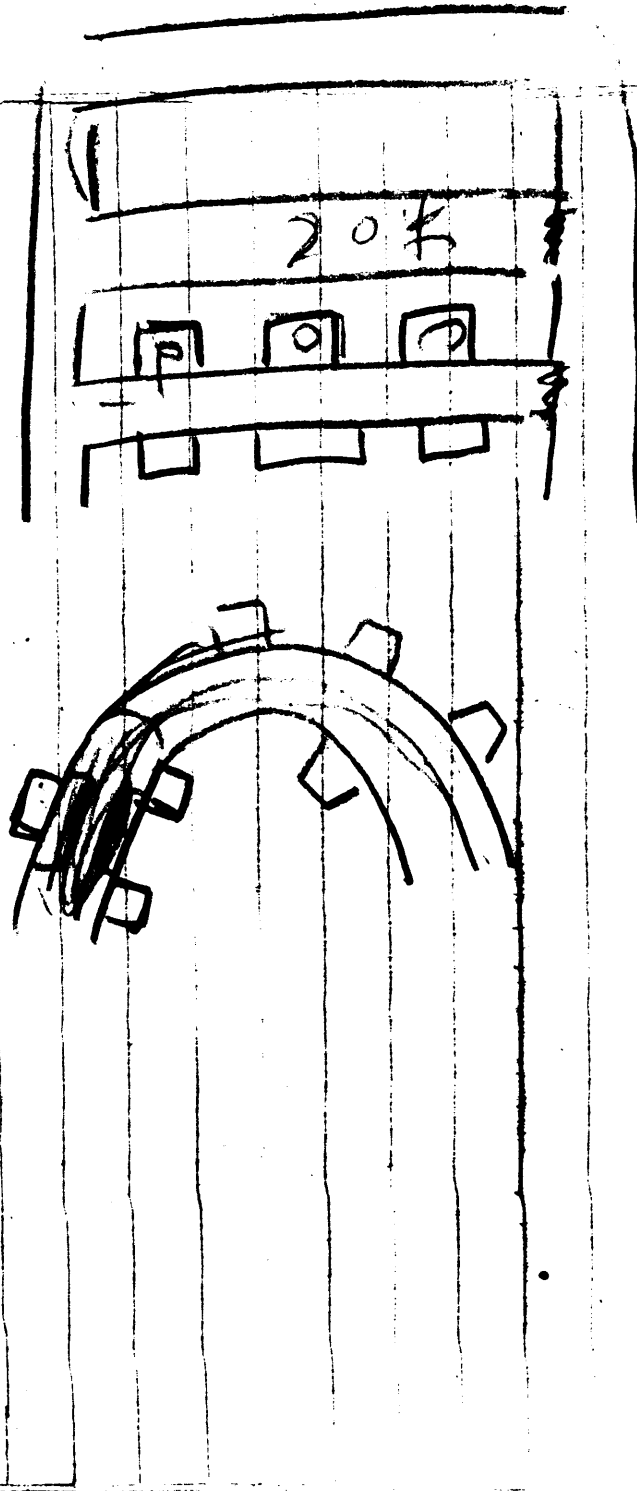
及防諜、指導、並、重要秘密教、

管内、官民、對、人、宣傳、實施、

本大綱、施行、命令、之、五、第、二、七、之、五、條、

（二）頭、子、防、秘、密、教、大、綱、

陸軍







一、海軍部 艦隊司令部 艦隊司令部 艦隊司令部

我海軍部之方針 在於 全體之總力

之明 之明 之明 之明 之明 之明 之明 之明

之方 之方 之方 之方 之方 之方 之方 之方

組織 組織 組織 組織 組織 組織 組織 組織

附屬 附屬 附屬 附屬 附屬 附屬 附屬 附屬

附屬 附屬 附屬 附屬 附屬 附屬 附屬 附屬

陸軍

(日本ノトシ)

之カ為要所ニ分子ヲ獲得シ置ク  
 トモニ要所ニ立橋機関ニテヲ推展  
 可置ス  
 三 情報 情報ニ情報力ニ應ジテ其権セテ  
 ハ(キ)更 部ノ本政要前後ニ分ケ概  
 左記ノ如ク指回スルヲ要ス  
 (本政要前) (野内情報)

(以下略)

陸軍

一 便子ノ思想ニ對シテ是ニ對シテ分カノ相違  
 二 政治經濟情報

三 本政要開始後

一 軍事情報 (軍事情報) 即チ  
 本軍ニ對シテニ適宜ス

宣傳勸励方針

一 宣傳ノ戰況ノ前後ヲ通シテ官民  
 (軍)

一 戦意ヲ口印揚シ其力ノ培養維

陸軍



陸軍  
 陸軍省外に軍、兵三〇人要領ニヨル  
 宣傳ヲ高切ナリトシ、謀報ト  
 密接ナリトシ、且、急所ニ應ズル如  
 キ如カシ  
 二、宣傳ノ高切ナリトシ、謀報ト  
 密接ナリトシ、且、急所ニ應ズル如  
 キ如カシ  
 三、宣傳ノ高切ナリトシ、謀報ト  
 密接ナリトシ、且、急所ニ應ズル如  
 キ如カシ

陸軍

外官民有カ者(共進士階級)ヲ宣  
 全ニ收斂スルニ要ス  
 之カ者ニハ平素ノ情報ヲ注メシ  
 セ、我道ナカシ付事ス  
 四、特別ノ事ニ依テ發生(宣ニ其義或ニ誤ル)  
 ニ就テハ、宣ニ其義或ニ誤ル  
 之判宣傳ノ實現ス

宣傳ノ高切ナリトシ、謀報ト  
 密接ナリトシ、且、急所ニ應ズル如  
 キ如カシ



記布シテ不為ス

### 謀略勅務方針

- 一 謀略の大樹リテ而テ綿密固執ナル由ニ為ス
- 二 確実ナル基礎ヲ以テテ人後ニ先テ
- スルニ其カシク以テ者ナル武果ヲ以テテ
- 得ルニテ之ニ專ラテ軍ノ行ヲ謀略ニ

(以下略)

陸軍

進退之ニテ其準備ニ止メテ其部

我軍の謀略ヲ策スルニ止ム

二 謀略實施ノ宣傳機關トシテ關係不十分

傳ハテ考定シテ其素ニカ素地ノ培

養ニ努ム

### 謀略勅務方針

謀略の實施に當りては、其の準備を固くし、其の宣傳機關を不十分とせず、其の素地を培養するに努むべし。





一 軍ノ戰時警備ニ照應シ昭和十八年五月二十七日ヨリ北海道ニ、昭和十九年七月十五日ヨリ樺太ヲ除ク全廳府縣ニ實施シタル總動員警備ハ爾今本要綱ニ基キ之ヲ實施スルモノトス

二 情勢ノ推移ニ依リ本要綱中改正ヲ必要トスル場合其ノ重要ナラザルモノニ付テハ中央總動員警備協議會ノ協議決定ヲ以テ之ヲ改正スルコトヲ得ルモノトス

三 昭和十一年十二月二十六日閣議決定ニ係ル「總動員警備計畫暫定綱領」ハ之ヲ廢止スルモノトス

目次

第一章	總則	一頁
第二章	總動員警備一般要領	二
第一節	通則	二
第二節	總動員警備要員	四
第三節	總動員警備用通信及輸送	五
第四節	治安維持	八
第五節	重要警備對象物及主要警備地ノ總動員警備	九
第六節	機密保護	一〇
第三章	各種非常事態ニ對スル總動員警備要領	一一
第一節	沿岸警備	一一
第二節	空襲警備	一三

第三節	災害警備	一五
第四節	騷擾警備	一七

二

# 總動員警備要綱

## 第一章 總 則

0055

第一條 總動員警備ハ非常事態ニ際シ人及物的資源ノ被害ヲ防止輕減シ治安ヲ維持シ其ノ他國防目的達成ノ妨害ト爲ルベキ諸事象ヲ排除スルヲ目的トス

第二條 總動員警備ハ大東亞戰爭ニ際シ左ニ掲グル事態發生シ又ハ其ノ虞大ナルトキ必要ニ應ジ其ノ全部又ハ一部ヲ全國ニ又ハ地域ヲ限リ之ヲ實施ス

一 沿岸ニ對スル敵ノ攻撃

二 空襲

三 災害、騷擾其ノ他ノ非常事態

本要綱ニ於テ沿岸警備ト稱スルハ前項第一號ノ事態ニ對スル總動員警備ヲ、空襲警備ト稱スルハ同第二號ノ事態ニ對スル總動員警備ヲ、災害警備ト稱スルハ同第三號中災害ニ對スル總動員警備ヲ、騷擾警備ト稱スルハ同第三號中騷擾ニ對スル總動員警備ヲ謂フ

第三條 總動員警備ハ警察力ヲ中核トシ關係各廳ノ警備力ヲ糾合シ且必要ニ應ジ帝國法人其ノ他ノ團體（帝國在郷軍人會ヲ除ク以下同ジ）等ノ協力ヲ得テ之ヲ實施ス

一

第四條 總動員警備ハ陸海軍ノ行フ警備ト緊密ニ聯繫協調シテ之ヲ實施シ特ニ沿岸警備ハ陸海軍ノ行フ防衛ニ則  
應シテ之ヲ實施ス

第五條 外地ニ於ケル總動員警備ハ夫々當該地ノ特性ニ應ジ本要綱ニ準ジ之ヲ實施ス

## 第二章 總動員警備一般要領

### 第一節 通 則

第六條 內務大臣必要アリト認ムルトキハ地方長官ニ對シ總動員警備ノ實施ヲ命ズ

內務大臣前項ノ規定ニ依リ總動員警備ノ實施ヲ命ズルトキハ同時ニ關係大臣ニ其ノ旨通知ス

關係大臣前項ノ通知ヲ受ケタルトキハ直ニ其ノ監督ニ屬スル關係官廳ニ其ノ旨通知シ必要アリト認ムルトキハ  
自ラ總動員警備ヲ實施シ又ハ其ノ監督ニ屬スル關係官廳ニ對シ總動員警備ノ實施ヲ命ズ

第七條 地方長官ハ緊急ノ必要ニ依リ內務大臣ニ對シ前條第一項ノ措置ヲ稟請スルノ暇ナキトキハ總動員警備ヲ  
實施スルコトヲ得

地方長官前項ノ規定ニ依リ總動員警備ヲ實施スルトキハ同時ニ關係地方官廳ニ其ノ旨通知ス

關係地方官廳前項ノ通知ヲ受ケ必要アリト認ムルトキハ總動員警備ヲ實施ス

第八條 關係官廳ハ前二條ノ規定ニ依リ總動員警備ノ實施及之ニ關シ必要ナル設備資材ノ整備ノ爲總動員警備計  
畫ヲ設定ス

第九條 總動員警備上一般ニ特ニ考慮スベキ事項概ネ左ノ如シ

一 總動員警備關係各廳相互間ノ密接ナル聯繫協調ヲ統一アル警備ノ實施

二 總動員警備ニ關スル情報ノ迅速ナル通報

三 情報宣傳ニ關スル措置

四 總動員警備要員ニ關スル措置

五 總動員警備用通信施設ノ整備

六 事故發生ニ對スル應急措置

七 二種以上ノ非常事態同時ニ發生シタル場合ノ警備措置

第十條 總動員警備ノ實施ハ非常事態ノ程度、様相ニ應ジ重點的ナラシムル爲總動員警備要員ノ集結、配置、勤  
務ノ程度、方法、業務ノ範圍等ニ付適宜弾力性ヲ保持セシム

第十一條 陸海軍ノ戰時警備ノ實施アリタルトキハ原則トシテ同時ニ總動員警備ヲ實施ス

第十二條 總動員警備ノ實施ニ當リテハ各廳ハ警備措置ノ敏速適正ヲ期スル爲必要ニ應ジ總動員警備本部ヲ設置  
ス

總動員警備本部ノ組織機構ハ努メテ之ヲ簡素強力ナラシムルト共ニ空襲ニ對スル總動員警備本部ハ防空計畫ニ  
基ク防空本部ト一體タラシム



第四條 總動員警備ハ陸海軍ノ行フ警備ト緊密ニ聯繫協調シテ之ヲ實施シ特ニ沿岸警備ハ陸海軍ノ行フ防衛ニ則  
應シテ之ヲ實施ス

第五條 外地ニ於ケル總動員警備ハ夫々當該地ノ特性ニ應ジ本要綱ニ準ジ之ヲ實施ス

## 第二章 總動員警備一般要領

### 第一節 通 則

第六條 內務大臣必要アリト認ムルトキハ地方長官ニ對シ總動員警備ノ實施ヲ命ズ

內務大臣前項ノ規定ニ依リ總動員警備ノ實施ヲ命ズルトキハ同時ニ關係大臣ニ其ノ旨通知ス

關係大臣前項ノ通知ヲ受ケタルトキハ直ニ其ノ監督ニ屬スル關係官廳ニ其ノ旨通知シ必要アリト認ムルトキハ

自ラ總動員警備ヲ實施シ又ハ其ノ監督ニ屬スル關係官廳ニ對シ總動員警備ノ實施ヲ命ズ

第七條 地方長官ハ緊急ノ必要ニ依リ內務大臣ニ對シ前條第一項ノ措置ヲ稟請スルノ暇ナキトキハ總動員警備ヲ  
實施スルコトヲ得

地方長官前項ノ規定ニ依リ總動員警備ヲ實施スルトキハ同時ニ關係地方官廳ニ其ノ旨通知ス

關係地方官廳前項ノ通知ヲ受ケ必要アリト認ムルトキハ總動員警備ヲ實施ス

第八條 關係官廳ハ前二條ノ規定ニ依リ總動員警備ノ實施及之ニ關シ必要ナル設備資材ノ整備ノ爲總動員警備計

畫ヲ設定ス

第九條 總動員警備上一般ニ特ニ考慮スベキ事項概ネ左ノ如シ

一 總動員警備關係各廳相互間ノ密接ナル聯繫協調特ニ統一アル警備ノ實施

二 總動員警備ニ關スル情報ノ迅速ナル通報

三 情報宣傳ニ關スル措置

四 總動員警備要員ニ關スル措置

五 總動員警備用通信施設ノ整備

六 事故發生ニ對スル應急措置

七 二種以上ノ非常事態同時ニ發生シタル場合ノ警備措置

第十條 總動員警備ノ實施ハ非常事態ノ程度、様相ニ應ジ重點的ナラシムル爲總動員警備要員ノ集結、配置、勤  
務ノ程度、方法、業務ノ範圍等ニ付適宜彈力性ヲ保持セシム

第十一條 陸海軍ノ戰時警備ノ實施アリタルトキハ原則トシテ同時ニ總動員警備ヲ實施ス

第十二條 總動員警備ノ實施ニ當リテハ各廳ハ警備措置ノ敏速適正ヲ期スル爲必要ニ應ジ總動員警備本部ヲ設置  
ス

總動員警備本部ノ組織機構ハ努メテ之ヲ簡素強力ナラシムルト共ニ空襲ニ對スル總動員警備本部ハ防空計畫ニ  
基ク防空本部ト一體タラシム

第十三條 各廳ハ總動員警備計畫ニ基キ總動員警備訓練ヲ施行ス

總動員警備訓練ハ總動員警備諸機關及各種總動員警備業務ニ付適宜各箇若ハ綜合訓練又ハ圖上若ハ實地訓練ニ分チ且適宜陸海軍ト聯合シテ之ヲ施行スルト共ニ防空訓練ノ施行ニ當リテハ原則トシテ總動員警備訓練ヲ併セ施行ス

第十四條 總動員警備計畫ノ設定、總動員警備ノ實施其ノ他總動員警備ニ關シ關係各廳ノ聯絡協調ヲ圖リ各廳關聯事項ヲ審議スル爲左ニ依リ中央及地方ニ總動員警備協議會ヲ設ク

一 中 央

內務省ニ中央總動員警備協議會ヲ設ク

中央總動員警備協議會ハ內務次官ヲ會長トシ內閣及各省ノ關係職員ヲ以テ之ヲ組織ス

二 地 方

廳府縣ニ地方總動員警備協議會ヲ設ク

地方總動員警備協議會ハ地方長官ヲ會長トシ關係地方廳及關係陸海軍ノ關係職員ヲ以テ之ヲ組織ス  
必要ニ應ジ二個以上ノ地方總動員警備協議會ヲ合シ聯合地方總動員警備協議會ヲ開クコトヲ得

## 第二節 總動員警備要員

第十五條 總動員警備要員ノ主體ハ左ニ掲グル者ヲ以テ之ニ充ツ

一 警察消防官吏

二 警防團

三 各廳警備員

第十六條 地方長官ハ關係地方官廳ト協力シ總動員警備ノ實施ノ爲帝國法人其ノ他ノ團體等ノ協力ヲ求メ又ハ此等ノ者ヲシテ自衛警備ヲ行ハシムル如ク指導ス

第十七條 各廳ハ各種非常事態發生ニ際シ迅速適切ニ之ニ對處シ得ル如ク所屬總動員警備要員ノ非常召集、非常參集及配置ニ付計畫準備ス

第十八條 各廳ハ總動員警備要員又ハ總動員警備ニ必要ナル物件ノ管内及管外ニ對スル應援又ハ救援ニ付計畫準備ス

第十九條 各廳ハ總動員警備計畫ニ基キ警備要員ノ整備充足ニ努ム

## 第三節 總動員警備用通信及輸送

第二十條 總動員警備用通信トシテ左ノ施設ヲ利用スルモノトシ別ニ定ムル警備通信計畫ニ依リ之ガ實施ノ確保ヲ圖ル

一 警察用電話及電信

二 公衆用電話及電信（無線電話及電信ヲ含ム）

三 鐵道用電話及電信

四 放送無線

五 軍用電話及電信

六 其ノ他ノ電話及電信（無線電話及電信ヲ含ム）

第二十一條 警察用電話及電信ハ總動員警備用通信ノ主體トス

警察用電話及電信ハ警察官憲相互間及軍警間ノ聯絡ニ供シ且警察業務ニ支障ナキ場合ニ限り警備ニ任ズル陸海軍部隊ノ使用ニ供ス

第二十二條 公衆用電話及電信（無線電話及電信ヲ含ム）ハ總動員警備用通信ニ廣ク之ヲ利用ス

前項ノ通信ニシテ軍警間及總動員警備擔當各廳間ノモノハ「警備通話」又ハ「警備電報」トシテ優先取扱ヲ爲ス

第二十三條 鐵道用電話及電信ハ鐵道ノ總動員警備ノ爲之ヲ利用ス

鐵道用電話及電信ハ鐵道業務ニ支障ナキ場合ニ限り警備ニ任ズル陸海軍部隊及總動員警備ノ爲警察其ノ他ノ總動員警備擔當各廳ノ使用ニ供ス

第二十四條 放送無線ハ總動員警備上民衆ニ速報スベキ事項ノ傳達等ニ之ヲ利用ス

第二十五條 軍用電話及電信ハ陸海軍トノ協議ニ依リ特ニ必要ナルモノニ限り軍警間ノ聯絡等ノ爲利用スルコトヲ得

第二十六條 前各條ニ掲グルモノノ外官廳用及私設ノ電話及電信（無線電話及電信ヲ含ム）ハ之ヲ關係法令ノ規定ニ從ヒ必要ニ應ジ總動員警備用通信ノ利用ニ供ス

第二十七條 重要ナル通信ニシテ其ノ内容祕匿ヲ要スルモノハ適宜暗號又ハ略號等ヲ使用ス  
前項ノ暗號又ハ略號ハ成ルベク各廳間共通ノモノトス

第二十八條 非常事態發生シ前各條ニ掲グル通信施設破壞又ハ故障ノ爲不通トナル場合ニ備ヘ之ガ復舊工作ニ關スル機關ヲ整備強化スルト共ニ鳩通信、傳令等有ラユル補助的通信方法ヲ準備シ積極的ナル聯絡ノ確保ニ遺憾ナカラシム

尙通信施設不通等ノ場合ハ必要ニ應ジ警備機關相互ノ通報其ノ他ノ聯絡ヲ良好ナラシムル爲適宜關係廳警備機關ヲ統合セル情報聯絡所ヲ設置ス

第二十九條 警備機關ハ各種非常事態ノ發生ニ際シ適時機動力ヲ發揮シ迅速ニ之ニ對處シ得ル如ク豫メ關係地方輸送擔當官廳ト聯絡シ所要ノ準備ヲ整フ

第三十條 警備機關狀況ニ應ジ迅速ナル機動ヲ要スル場合ニ於テハ臨機急速ニ電車、列車、舟艇等ヲ利用スルコトアルモノトス

第三十一條 沿岸警備ノ爲ニ配置セラレタル帝國在郷軍人會防衛隊ノ警備用通信及輸送ニ關シテハ警備ニ任ズル陸海軍部隊ニ準ジ之ヲ取扱フ、

第四節 治安維持

第三十二條 非常事態ニ對處スル國政一般ノ運用ニ則シ社會人心ノ不安ヲ除キ國論ヲ統一シ政府及陸海軍ニ全幅ノ信賴ヲ懸ケシメ其ノ他禍機ヲ包藏スベキ社會的因子ノ醗酵ヲ防止スルノ外治安維持ノ爲概ネ左ノ措置ヲ講ズ

一 情報及宣傳

情報ノ蒐集及宣傳ハ警備特ニ治安維持ノ主要要件ナルヲ以テ總動員警備ノ實施ニ當リテハ有ラユル手段ヲ盡シテ迅速ニ正確ナル情報ヲ蒐集シ狀況ノ的確ナル把握ニ努ムルト共ニ之ニ基キ當面ノ情勢ニ應ジ適切ナル宣傳上ノ措置ヲ講ズ

二 流言蜚語ノ取締

流言蜚語ノ取締ヲ嚴ニシ且流言蜚語ノ種類及之ヲ感受スルニ至ル社會的條件ヲ究明シテ其ノ發生ノ根源ヲ芟除スルト共ニ真相發表ヲ適切ナラシムル等流言蜚語打破ノ爲必要ナル積極的措置ヲ講ズ

三 要視察人及要注意人ニ對スル措置

要視察人及要注意人ノ查察監視ヲ嚴ニシ必要ニ應ジ豫防檢束ヲ行フ等各機關ノ聯絡協調ヲ緊密ニシ其ノ取締ニ遺憾ナカラシム

四 言論、出版、集會、結社及多衆運動ノ取締

取締ヲ嚴ニスルノ外總動員警備實施中ハ反戰反軍ノ言論及運動並ニ内外ニ於ケル陰謀ハ之ヲ斷乎彈壓ス

五 怠業、罷業其ノ他重要生産阻害行爲ノ取締

怠業、罷業其ノ他重要生産事業ヲ阻害スル行爲ヲ防遏スル爲警備上適切ナル措置ヲ講ズ

六 各種謀略活動ノ防止

敵國側ノ宣傳及破壞等ニ依ル謀略活動ニ對シテハ之ガ完封ヲ期シ警備上周到ナル措置ヲ講ズ

七 戰時經濟統制攪亂行爲ノ取締

經濟攪亂行爲ニ備ヘ嚴重ナル警告、監視其ノ他適當ナル措置ヲ強化ス

第五節 重要警備對象物及主要警備地ノ總動員警備

第三十三條 主要官公衙、重要生産、交通、運輸、通信、供給施設其ノ他ノ重要施設及重要資源等（以下重要警備對象物ト稱ス）ニ對シ非常事態ノ種別、様相ニ應ジ適切ナル警備ヲ實施ス

重要警備對象物ノ種別、範圍等ハ別ニ之ヲ定ム

第三十四條 重要警備對象物ノ警護ハ其ノ管理者又ハ所有者自ラ之ニ任ジ其ノ従事員ヲ以テ之ヲ爲スヲ本則トス

重要警備對象物ノ内特ニ重要ナルモノニ限リ警察官吏之ヲ警護ス

非常事態ニ際シ重要警備對象物ニ付其ノ管理者又ハ所有者自ラ警護ヲ實施シタルトキ又ハ警察官吏ニ依ル警護ヲ爲スノ要アリト認ムルトキハ速ニ其ノ旨警察官廳ニ通知ス

第三十五條 重要警備對象物ノ内軍事上特ニ緊要ナルモノニ限り所要ニ應ジ陸海軍ニ依リ警護セラル此ノ場合當該關係警備機關ハ警備ニ任ズル陸海軍ノ部隊ト緊密ニ聯繫ヲ保持ス

陸海軍ニ於テ警護ヲ擔當スル重要警備對象物ハ關係陸海軍ノ指揮官ヨリ關係官廳ニ通知ス

第三十六條 内務大臣ハ中央總動員警備協議會ノ議ヲ經テ非常事態ノ種別ニ應ジ總動員警備上重要ナル地域ヲ指定シテ主要警備地ト爲ス

地方長官ハ地方總動員警備協議會ノ議ヲ經テ主要警備地ノ區劃ヲ決定ス  
第三十七條 主要警備地ニ付テハ他ノ地域ニ比シテ總動員警備ヲ至嚴ナラシム

第六節 機密保護

第三十八條 機密保護ノ爲概ネ左ノ事項ノ徹底ヲ圖ル

- 一 間諜ノ取締
- 二 通信ノ取締
- 三 新聞、雜誌其ノ他ノ出版物ノ取締
- 四 内外人出入國及旅行ノ取締
- 五 其ノ他軍事上ノ機密、軍用資源機密、國家機密、總動員機密及經濟機密ニ接觸スル者ノ特別取締

第三章 各種非常事態ニ對スル總動員警備要領

第一節 沿岸警備

第三十九條 沿岸警備ノ主眼ハ沿岸ニ對スル敵ノ攻撃ニ對シ陸海軍ノ行フ防衛ニ則應シテ官民警備機關ノ強力且有機的ナル警備活動ニ依リ國土防衛上遺憾ナキヲ期スルニ在リ

第四十條 沿岸警備機關トシテハ警察其ノ他ノ各廳警備機關、警防團、學校報國隊、特設防護團等原則トシテ既存ノモノヲ以テ之ニ充ツ

第四十一條 沿岸警備機關ノ行フ業務ハ混亂ノ防止、流言蜚語ノ取締、謀略ノ阻止等非常事態下ニ於ケル治安維持上緊要ナル業務ノ外概ネ左ノ如シ

- 一 監視、警戒
- 二 通信
- 三 警報
- 四 海上ニ對スル燈火管制
- 五 重要警備對象物ノ防護
- 六 待避及緊急避難

七 救護

八 自衛抵抗其ノ他敵ノ自由ナル行動ヲ困難ナラシムル措置

九 必要ニ應ジ消防其ノ他ノ防護措置並ニ警備ニ任ズル陸海軍部隊ヘノ協力

第四十二條 沿岸警備ノ實施ノ時期及區域ニ關シテハ陸軍大臣又ハ海軍大臣ノ通知ニ依リ内務大臣之ヲ定ム但シ緊急ノ必要アル場合ハ軍司令官、鎮守府司令長官、警備府司令長官又ハ獨立艦隊司令長官ノ通知ニ依リ地方長官之ヲ定ム

第四十三條 陸軍大臣又ハ海軍大臣ハ陸海軍ノ行フ防衛ニ則應セシムル爲沿岸警備ニ關スル計畫設定上基準トナルベキ事項ヲ定メ之ヲ内務大臣及其ノ他ノ關係大臣ニ提示ス

軍司令官、鎮守府司令長官、警備府司令長官又ハ獨立艦隊司令長官ハ陸海軍ノ行フ防衛ニ則應セシムル爲沿岸警備ニ關スル計畫設定上基準トナルベキ事項ヲ定メ之ヲ地方長官及其ノ他ノ關係地方官廳ニ提示ス

内務大臣及其ノ他ノ關係大臣又ハ地方長官及其ノ他ノ關係地方官廳ハ前二項ノ提示ヲ受ケタルトキハ之ニ應ジ沿岸警備ニ關スル計畫ヲ設定ス

第四十四條 陸軍大臣又ハ海軍大臣ハ沿岸警備ノ實施ニ付陸海軍ノ行フ防衛ニ則應セシムル爲必要ナル事項ヲ内務大臣又ハ其ノ他ノ關係大臣ニ請求スルコトヲ得

軍司令官、師團長、要塞司令官、防衛司令官、警備司令官、鎮守府司令長官、警備府司令長官、獨立艦隊司令長官、根據地隊司令官又ハ警備隊司令官ハ沿岸警備ノ實施ニ付陸海軍ノ行フ防衛ニ則應セシムル爲必要ナル事項

ヲ地方長官、警察署長又ハ其ノ他ノ關係地方官廳ニ請求スルコトヲ得

防衛ニ任ジアル獨立セル陸海軍部隊ノ長ハ沿岸警備ノ實施ニ際シ緊急ノ必要アルトキハ陸海軍ノ行フ防衛ニ直接必要ナル事項ヲ其ノ地ノ關係行政廳ニ請求スルコトヲ得

内務大臣若ハ其ノ他ノ關係大臣又ハ地方長官、警察署長若ハ其ノ他ノ地方官廳又ハ關係行政廳前三項ノ請求ヲ受ケタルトキハ之ニ應ジ所要ノ措置ヲ講ズ

第四十五條 海上ニ對スル監視ハ防空監視哨其ノ他既存ノ防空監視施設ヲシテ之ニ當ラシメ沿岸警備ノ爲ノ特別ナル監視哨ノ配置ハ軍司令官、鎮守府司令長官、警備府司令長官又ハ獨立艦隊司令長官ノ通知ニ依リ地方長官之ヲ行フ

第四十六條 敵ノ攻撃ニ際シ之ガ警報ヲ一般ニ傳達スル爲所要ノ措置ヲ講ズ

第二節 空襲警備

第四十七條 空襲警備ノ主眼ハ空襲ニ伴ヒ生起スル各種有害事象ヲ迅速適切ナル警備活動ニ依リ豫防排除シ重要機關、施設ノ機能發揮ニ支障ナカラシムルト共ニ人心ノ安定ヲ圖リ秩序ヲ維持又ハ回復シ以テ國土防衛上遺憾ナキヲ期スルニ在リ

第四十八條 警備機關ノ行フ業務ハ空襲被害ノ狀況等ニ依リ差異アルモ主要ナルモノ概ネ左ノ如シ

一 情報ノ蒐集及宣傳上ノ措置

- 二 流言蜚語ノ取締
- 三 敵ノ諜報、宣傳、謀略ノ阻止
- 四 重要警備對象物ノ警護
- 五 戰時犯罪ノ豫防又ハ取締
- 六 混亂ノ防遏
- 七 被害ノ防止輕減
- 八 避難者ノ誘導又ハ收容
- 九 交通ノ制限又ハ禁止

前項ニ掲グル業務ニ該當スル防空法第一條及同法施行令第一條ニ掲グル業務ノ實施及之ニ關シ必要ナル設備資材ノ整備ハ防空計畫ノ定ムル所ニ依ル

第四十九條 空襲警備ハ地域又ハ施設ノ重要度ニ從ヒ緩急順序ヲ定メ最モ實情ニ即シ且防空計畫ニ照應スル如ク之ヲ實施ス

第五十條 空襲時ニ於ケル各機關ノ警備力ハ努メテ集團的且機動的ニ之ヲ運用スルト共ニ連續空襲ヲ考慮シ適宜彈力性ヲ保持セシム

第五十一條 空襲時ニ於ケル警備ハ常ニ狀況ヲ的確ニ把握スルト共ニ其ノ推移ヲ洞察シ特ニ初期ニ於テ機ヲ失セズ徹底セル對應措置ヲ講ズルヲ要ス之ガ爲現場各機關トノ聯絡ヲ緊密ニシ此等機關ヲシテ果敢ニシテ且統制アル行動ヲ爲サシム

第五十二條 空襲警備ハ極メテ廣汎多岐ニ亘ルヲ以テ現場各機關ト各級警備本部並ニ警備機關ト他ノ關係機關トノ聯絡ヲ緊密ナラシメ警備措置ヲシテ全體トシテ一貫統制アラシム

第五十三條 空襲時ニ於テ正確ナル情報ヲ迅速ニ蒐集シ且警備措置ヲ適切ナラシムル爲總動員警備協議會ニ於テ適時活潑ナル警備情報會同ヲ行フ

警備情報會同ニ於テ取扱フベキ事項概ネ左ノ如シ

- 一 災害ノ狀況ニ關スル事項
- 二 治安ノ狀況ニ關スル事項
- 三 各廳警備ノ狀況ニ關スル事項
- 四 警備上速ニ措置スベキ事項
- 五 其ノ他必要ナル事項

第五十四條 空襲時ニ於テ官民警備機關ノ支援後據トシテ治安ノ維持又ハ災害處理ノ爲軍隊ノ出動アリタルトキハ相互ニ緊密ナル聯繫ヲ保持シ警備目的ノ達成ニ遺憾ナキヲ期ス

第三節 災害警備

第五十五條 災害警備ノ主眼ハ大ナル風水害、震災、火災等ニ對處シ之ガ戰爭遂行ニ及ボス影響ヲ最少限度ニ止



ムル爲速ニ被害ヲ防止輕減シ人心ノ安定ヲ圖リ秩序ヲ回復スルニ在リ

第五十六條 警備機關ノ行フ主要ナル業務ハ概ネ左ノ如シ

- 一 人命ノ救助
- 二 資源ノ潰滅防止
- 三 災害ノ防禦又ハ鎮滅
- 四 避難者ノ誘導
- 五 罹災者ノ救護
- 六 流言蜚語ノ取締
- 七 犯罪ノ豫防又ハ取締

第五十七條 災害警備ハ事態發生後ニ於テ對應措置ヲ講ズルコト多カルベキヲ以テ警備要員ノ集結、出動、配置其ノ他ノ警備措置ヲ特ニ敏速ニ行フノ外左ニ依リ被害ノ發生ヲ未然ニ防遏スルニ努ム

一 風水害、震災等ニ對シテハ各種ノ手段ヲ講ジテ災害ノ發生ヲ豫知スルニ努メ之ニ應ジ迅速適切ナル事前措置ヲ講ズ

二 火災ニ對シテハ常ニ適切且徹底セル火災豫防手段ヲ講ズ

第五十八條 災害警備ニ付テハ災害ノ種別ニ應ジ且地理的條件其ノ他ノ實情ヲ勘案シ適宜警防區ヲ設定シ警備要員ノ配置及運用、警備用設備資材ノ整備等ニ關シ計畫準備ス

第五十九條 現場ニ於ケル災害警備ニ當リテハ最モ迅速ナル行動ヲ必要トスルヲ以テ成ルベク現場指揮官ヲシテ狀況ニ應ジ敏速適切ナル措置ヲ獨斷專行スルヲ得シム

#### 第四節 騷擾警備

第六十條 騷擾警備ノ主眼ハ騷擾ヲ萌芽ニ於テ芟除シ之ガ勃發ニ當リテハ迅速果斷ニ抑壓シテ公共ノ安寧ヲ確保シ戰爭遂行ニ支障ナカラムルニ在リ

第六十一條 騷擾勃發ノ兆アルトキハ必要ニ應ジ關係者特ニ首謀者ノ豫防檢束、集會又ハ多衆運動等ノ制限又ハ禁止、巡察警戒ノ實施、流言蜚語又ハ不穩文書圖畫等ノ取締、必要地域ノ交通ノ制限又ハ禁止等ノ措置ヲ講ジ各種ノ策動ヲ未然ニ封壓ス

第六十二條 騷擾勃發シタルトキハ其ノ發生ノ原因ニ依リ又ハ其ノ狀況ニ應ジ機ヲ失セズ適切ナル對應策ヲ講ジ之ヲ抑壓ス

第六十三條 騷擾警備ニ當ル警備機關ハ常ニ公平無私一途ノ方針ニ基キ其ノ行動ヲ律スルヲ要ス

第六十四條 騷擾警備ニ當リテハ一般ニ重要警備對象物ノ警護ヲ強化ス

第六十五條 騷擾警備ニ當リテハ騷擾ノ表面的活動ヲ防止鎮壓スルト共ニ穩密裡ニ行ハルル各種策動ヲ警戒封壓ス

第六十六條 騷擾ノ鎮壓ノ爲ニハ強力ナル武力ヲ背景トスルヲ有利トスル場合多キヲ以テ出動セル軍隊トノ聯繫

ヲ緊密ニシ警備上遺憾ナキヲ期ス

# 軍事機密

参考情報第三十三號

防諜参考資料送付ノ件

昭和二十年三月四日

球第六六部隊参謀長

球第六七部隊 殿

自題ノ件左記ノ如ク送付ス 球作命乙第五號ニ因聯シ  
利用相成度

左記

- 一 敵機、宣傳ビラ撒布状況
- 二 要塞地帯外新設防禦營造物ニ対スル標式、標示ト
- 三 防諜上ノ観点
- 四 英國秘密戰活動ニ端



# 敵機、宣傳ビラ撒布状況

一月二十日 撒布数約三千方 撒布区域 國頭郡 東村 大宜味村 本部町

吾達の指導者は嘘を言つた

去る十月十四日のラヂオ放送に於て日本の評論家が栗原海軍大佐の聲明を引用して日本軍は台湾を襲へた米國大艦隊に莫大なる損害を與へました。然し、此れにも拘はらず、アメリカは將來に於て日本を爆撃するかも知れないと申しました。

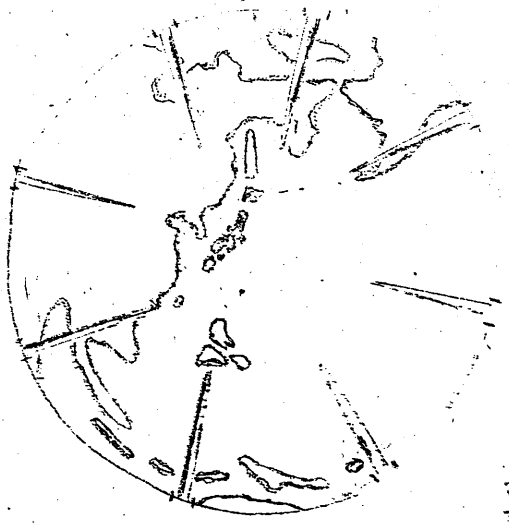
栗原海軍大佐は日本がいふ嘘を言つて十何等戦局には變化を與へる事が出来ないといふ事を知つて居るから將來の強力なアメリカ軍の日本内地爆撃に對する準備を作らうと細工をしたので、此等の飛行機は若達の指導者が台湾沖で沈めたと言張してゐる航空母艦より飛んで来たのです。此れで十月中に一隻の航空母艦も沈められなかつたといふ事が判るでせう。

○東面の八航母エヲ飛行ス「アモマン」ノ図入り

一月十六日 撒布数約三百 撒布区域 國頭郡 東村 慶佐次附近

我々は寧ろ爆撃を好まぬが然し、これが戦闘である。この爆撃には聯合國軍の多くの力と熱意が籠つてゐる。





東洋

日本の八紘二字は世界の八紘一敵である。  
 歐洲の戦争は事實上二聯合軍の勝利に歸する。聯合軍は左の八方より軍閥打倒の爲日本を攻撃するのである。  
 一 アラスカより 二 西米利加より 三 中央太平洋より  
 四 南太平洋より 五 濠洲より 六 印度より  
 七 歐洲より 八 北大西洋より  
 自己を保持せよ  
 國家を救助せよ  
 軍閥を打倒せよ

一 御存じですか

米軍の優勢な根據地は東京より一五〇哩の地点にあります。  
 日本には米艦隊の船隻より米軍の潜水艦が連沈して方が多し  
 ドイツの様は崩壊を日本はさける事が出ません  
 日本を攻撃して居る軍閥は米軍を逃がしません

論説

以上事例に見ラルル如ク敵の企図スル所ハハ物力的戦力誇示シヨル歎意破摧ト  
 四軍民離間シヨル内乱の擾起ニ在リ。現在、所之が民心ニ及ボセル影響皆無  
 ナリト雖、戦局、進展ト共ニ斯ノ種宣傳ヲ反復實施セラレタル場合、不知不識  
 ノ間ニ民心ニ浸透スル、虞無シトセズ。嚴重起成ヲ要スヘク百ナリ。各隊ニ在  
 テハ之ヲ遂用シテ敵懐心、白刃場ニ至ルシ乃至ハ我防謀心ヲ省ミル等々以テ  
 敵の企圖ヲ究討スル如ク指導者相成度、特ニ僻遠ノ地ニ於テ然リ  
 尚此、種宣傳ヲ收得(處理)シタル場合ハ速カニ本部ニ提出(報告)相成度

丁



ヲ標示スルコトノ防謀上ノ可否ニ付テハ検討セシ(勿論衛兵等ヲ配置シタ場所又ハ山間地ニ点々ト點未造セテ平素ハ監守者ヲ附セズ放任シテ置ク所御不營造物モ亦有リ得ベシ)

◎軍機保護法ノ保護物タル陸軍防衛所營造物ニ対シテハ周圍地域ヲ是メ標識ヲ設ケテ標示セネバナラヌ又コトハ法令ノ示ス原則ニテアルガ標示スルト一々一般ニ防禦營造物ノ所在ヲ知ラシムル結果トナル

◎若シ周圍地域ヲ是メテサイトスレバ測量、撮影、模寫、模造、録取、又ハ複製、複製等ノ行為ヲ取締ルコトハ出来テモ一般ノ人カ防禦所營造物ノ周圍地域ニ自由ニ立入ツテモ軍機保護法ヲ以テ處罰スルコトカ出来ナク  
◎取締ル面カラズレバ軍機保護法ノ保護物トシテ法規通リ標識ヲ標示シテ明瞭ニシテ四圍クコトカ必西要デアル

◎多少軍事知識ヲ有ス者ハ標識ノ有無ニ拘現場ニ到レバ直ニ防禦所營造物タルコトヲ知リ得ルカラ標識セルカ故ニ能々秘密物ノ所在ヲ一般ニ知ラシムル旨アリトクミハ言ヒ得ナイ  
以上観点カシ標識ヲ標示スル問題ニ關シテハ左ノ結論ヲ到達スルニ即チ

◎法令ノ命令ニ通リ標識ハ標示スベキモノナリ標示シテ周圍已成タルコトヲ明瞭ニシテ置ク要ガアル

◎然シ標識ヲ標示スルコトヨリシテ事カ陣地構成ヲ救護スル為有官ナリトスレバ標識ヲ省略スルコトモ考ヘザレル 此ノ場合ハ法ニヨル取締ハ出来ヌコトハ要シテ防謀措置ヲ講ゼネバナラヌ  
◎一例ヲ舉ゲレバ

◎地巴ニ対スル郵檢ヲ繕續實施スルコト  
◎地巴任民ニ対シ國民思想ヲ印揚シ防謀意識ノ普及徹底ニ努ムコト

—(了)—